

貞子さんとコンピュータ



下土橋 渡

故入院貞子さんのお付き合いは、平成十八年四月二十九日に、一行の短いメールを頂いたことから始まりました。

何気なく自分の入来薪能を検索しましたら、素敵な写真が現れてびっくりしています。

入来院貞子

平成十四年から個人のホームページを開設して旅行記やレポートなどを掲載していた著者は、平成十七年八月二十七日に開催された第六回入来薪能を取材しホームページに載

せました。それをご覧頂き貞子さんからメールを頂いたのです。早速、お礼を兼ねて挨拶のメールを返信してメールのやり取りが始まりましたが、頂いた自己紹介のメール文のなかに、COBOL(コボル)、FORTRAN(フォートラン)というコンピュータの専門用語があつて驚いたのです。

早速にお返事有難うございました。船木は入来のすぐ近くですね。こんなお近くに、こんな方(コンピュータを専門にしている人)がいたなんて全然存知上げませんでした。もう百万の味方が出来たような心強い思いで居ります。私は大型のコンピュータでしたら得意でしたが(COBOL、FORTRANなど)、パソコンは始めたばかりです。

私は、一九七〇年三十六歳から富士電機株式会社東京工場の電算室に二十年ほど、もっ

ばら生産管理や在庫管理などのバッチシステムを担当して来ました。まだ八十欄カードの時代でした。QC（品質管理）の賞状が何枚もあります。五十五歳から六十歳まで全労済システムズで大型のIBMのマシンでデータベースのシステムを五年やりました。

（平成十八年四月二十九日のメール）

一九七〇年といえば、まだ計算尺が使われており、大学の研究室には機械式の手回し計算機が残っていた時代でしたが、大手企業では大型の汎用コンピュータが導入され、品質管理、資材在庫管理、生産管理、生産計画などのシステムが開発され始めたまさに黎明期でした。この時代に日本電算機総合学院でコンピュータを学ばれ実務に就かれた貞子さんは、まさしくわが国におけるSE（システムエ

ンジニア）の草分け的存在であり、二十三年という実務経験を持たれたベテランだったわけです。

今でこそパソコン教室は、一人に一台コンピュータが準備されていますが、当時は機材も少なく、ましてや大型コンピュータ時代です。当時の専門学校は、たくさんの人に入學してもらいたくさん入学金を納めてもらおうと、ついていけないほどの猛スピードで授業を進めたのだそうです。退学者がでるとそれだけ機材に余裕がでてくるわけです。そうして、貞子さんと一緒に無事卒業できたのは数名だったそうです。

コンピュータは、電圧がある値より高いときを1（ON）、低いときを0（OFF）と認識して動きます。したがって、1と0の組み合わせ、すなわち二進数の命令（プログラム）

を与えてコンピュータを動かすわけだが、1と0の羅列である機械語は人間には分かり難いので、英語ライクな高級言語が準備され、人間はまずこの高級言語でプログラムを記述します。それを機械語に翻訳し、標準関数という予め準備されているプログラムをリンクしてコンピュータが実行可能なプログラムを作ります。これを与えてコンピュータを動かすわけです。大型コンピュータのための高級言語が、COBOLやFORTRANなどで、前者は事務処理用、後者は科学技術計算用として使用されています。

コンピュータプログラマーになるためには、コンピュータの仕組みとともに先ずこのプログラム言語を習得する必要があります。プログラムが書けるようになって、次に上位職であるSEになるためには、品質管理、資材在庫管理、生産管理、生産計画といった仕事の

中身を理解し、SEになったら、効率良くどのようにコンピュータに仕事をさせるかを考えていかななくてはなりません。何枚もQC活動の賞状を頂かれた貞子さんは、効率的に仕事をさせるためのアイデアをたくさん考案されたに違いありません。

貞子さんとお付き合いさせて頂くようになり、入来花木会代表として入来薪能を主催されているにとどまらず、朝河貫一研究会理事・鹿児島市日中友好協会理事・文芸誌「火の鳥」「ゆうすげ」歌誌「にしき江」同人など、その多方面でのご活躍に驚かされることになったのですが、一方で貞子さんの頭の中には、二十三年の間に培われた、大型コンピュータシステムを動かすためのアルゴリズム（コンピュータに問題を解かせたり仕事をさせたりするための手順）やアイデアがいっぱい詰まっているに違いないと思い、貞子さんの異才に

改めて驚くのでした。

貞子さんは、ホームページを開設し旅行記やレポートなどをアップしたりしている著者の活動の最も良き理解者でした。メールマガジンやホームページをご覧頂いた都度、貞子さんならではのコメントをメールで送って頂きました。

思い出もたくさんありますが、一番の思い出は、昭和四十五年の大阪万博でラオス館だった建物を、お父様の山崎良順師が払い下げてもらわれて移築され、世界平和を祈願する無宗派の寺院とされた昭和寺を、平成二十年六月二十九日諏訪市霧ヶ峰に訪ねたことでしょうか。

法要にご参加頂ける由、心から感謝申し上げます。(中略)夕方五時頃上諏訪駅にいらっしやれば、入来院の友人たちが着くので、迎

えに出ていますから、後を付いていらっしやればと思います。夜の一杯がみんなの楽しみですから、どうぞご一緒に。二十九日は午後二時には終わりますから、霧ヶ峰を十分撮って、蓼科あたりに一泊なさり、翌日、諏訪湖や諏訪大社を取材なさればと思います。茅野の友人に宿のこと相談してみます。八ヶ岳、蓼科山はいい被写体と思います。ご検討くださいませ。

(平成二十年四月三十日のメール)

お亡くなりになるまでの五年余りの間に貞子さんから頂いたメールは、三百二十九通にのぼります。お亡くなりになる五日前の四月二十七日に頂いたメールが最後のメールとなりました。会津若松の西郷頼母に触れたレポートのコメントとして頂いたメールでした。

菊池家について従弟に電話で聞きました。ルーツは山形県で、系図もあるそうですから、後で送ってもらいましょう。周防の木口城主だったからキグチが菊池になったのだろうというのですが、少弐の家臣だったというのです、少弐冬資は、今川了俊に菊池市で暗殺されます。私の歴史小説「痛恨」に詳しく書いてあります。ですから、少弐の家臣ということは、阿蘇の菊池に関係があると思われるのが、菊池武之介。その横の二人はお手伝いさんです。また新しい発見がありそうです。

入来院貞子

改めて、入来院貞子さんのご冥福をお祈り申し上げます。



昭和寺本尊・三メートル金色像